

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2024年度) 評価結果報告書

2025年1月17日

社会福祉法人森友会
あそびの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿西新宿8-14-24
西新宿KFビル702

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構
認証評価機関番号 機構 03 - 081
電話番号 03-6279-0331
代表者氏名 理事長 中込 重秋

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	☒ 福祉	☒ 経営
	②	H1501067	☒ 福祉	☐ 経営
	③	H0902065	☒ 福祉	☒ 経営
	④	H1001023	☒ 福祉	☐ 経営
	⑤		☐ 福祉	☐ 経営
	⑥		☐ 福祉	☐ 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	あそびの森保育園			
事業所連絡先	〒	185-0014		
	所在地	東京都国分寺市東恋ヶ窪2-11-4		
	Tel	042-313-8911		
事業所代表者氏名	井上 薫			
契約日	2024 年 6 月 1 日			
利用者調査票配布日(実施日)	2024 年 7 月 12 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 9 月 5 日			
自己評価の調査票配布日	2024 年 7 月 12 日			
自己評価結果報告日	2024 年 9 月 5 日			
訪問調査日	2024 年 9 月 12 日			
評価合議日	2024 年 9 月 12 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。			

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・「心身の調和的発達」を促す保育 すべての子どもが、自分の流れで園生活を楽しむ。 ・「基本的生活習慣」の育成を進める保育 すべての子どもが、無理なく自立の道を歩む。 ・「集団への参加と自主協調の態度」を養う保育 すべての子どもが、協力・共同の喜びを知る。 ・「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味・関心」を育てる保育 すべての子どもが、自然・社会に積極的に関わる。 ・「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎」を培う保育 すべての子どもが、自分なりに表現を楽しんで発表する。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 子どもを尊厳のある人間としてきちんと向き合える人、いつもやさしい笑顔で子どもに無限の愛を与え、見守っていける人、そして子どものために自分を磨き、子どもたちとともに成長し続けることのできる人。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 子どもと視線を合わせ、言葉を交わし、誉めることで、子どもが自信と好奇心を育む応援をしたいという思いを大切に専門性を持って子どもと接し、保護者と良好な関係を築けること、また、地域との繋がりがりや未就学児、将来の子どものもことも考えられる職員になることを期待。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯69(在籍児童数80)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数	80
利用者家族総数(世帯)	69
共通評価項目による調査対象者数	69
共通評価項目による調査の有効回答者数	57
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	82.6

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」54.4%・「満足」42.1%の計96.5%と高い値を得ており、設問別では「発達に配慮した保育活動」「整理整頓・清潔」「ケガ・体調変化への対応」「子どもの気持ちの尊重」など全17問中12問で80～90%台の高い支持を得ている。
自由意見では「制作を自由にのびのびとさせてもらえる環境や、ぜいたくに素材をたくさん使用できるところがよい」と思い、先生方が和やかでいつも優しい表情をしていて、保護者にいつも寄り添ってくれる」「まだ新しくきれいで園内も清潔に保たれていて、アプリでのやり取りのため便利で、子どもの状況に応じて柔軟に対応してくれ、ママロッカーがあるので抱っこひもを置いておける」「先生方がとても親切で、子どもにも温かく接してくれ、提出書類の締切が余裕を持って設定されているので助かり、施設が明るい雰囲気です清潔感がある。1歳児クラスでもクッキング体験があり、小さなうちからいろいろな経験ができるのがよい」などの声が寄せられている。
さらなる向上を望む意見としては、日常の保育内容、人員配置、職員の退職・異動、業務負担の過重などへの懸念、設備に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	56	1	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が98.2%、「どちらともいえない」が1.8%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	53	4	0	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	54	2	1	0
「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が3.5%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は2件で、「食事内容は充実していると思う」のほか、月齢に合わせたおやつ提供やおかわりの形態について、さらなる配慮を望む声が見られる。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	45	8	4	0
「はい」が78.9%、「どちらともいえない」が14.0%、「いいえ」が7.0%となっている。 自由意見は5件で、戸外活動等のさらなる充実や個々への声かけを望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	42	3	1	11
「はい」が91.3%、「どちらともいえない」が6.5%、「いいえ」が2.2%となっている。 自由意見は、「急に遅れても快く受け入れてくれる点はすごくありがたい」「利用したことがない」の2件があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	42	10	3	2
「はい」が76.4%、「どちらともいえない」が18.2%、「いいえ」が5.5%となっている。 自由意見は4件で、「園内はやっている」のほか、外部侵入対策や保育中の安全管理、感染症対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	49	8	0	0
「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が14.0%となっている。 自由意見は5件で、行事の日程の設定、日程等の連絡などにおける各家庭への配慮について、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	48	9	0	0
「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が15.8%となっている。 自由意見は2件で、「相談したことがないが聞いてくれると思う」「信頼できそうな職員は多くいる」のほか、職員の対応について、さらなる配慮を望む声があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	55	2	0	0
「はい」が96.5%、「どちらともいえない」が3.5%となっている。 自由意見は4件で、「保育室だけでなく、職員室等も清潔で整理されている」「いつも清潔で、整頓されていると思う」「毎日掃除機をかけているようだ」のほか、床の清掃や設備面について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	51	6	0	0
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が10.5%となっている。 自由意見は、「先生たちは皆優しく、感じがいい」の1件があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	55	1	1	0
「はい」が96.5%、「どちらともいえない」が1.8%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は1件で、体調不良時の保護者への連絡について、さらなる配慮を望む声があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	37	9	1	10
「はい」が78.7%、「どちらともいえない」が19.1%、「いいえ」が2.1%となっている。 自由意見は6件で、「何か起きた場合は細かく説明してくれる」のほか、「見たことがないのでわからない」「いさかきやいじめがあると認識していないため『非該当』としている」や、トラブル発生時の把握・対応について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	55	2	0	0
「はい」が96.5%、「どちらともいえない」が3.5%となっている。 自由意見は1件で、「多くの職員は大切に思っていると思う」のほか、子どもの心情に寄り添った対応について、さらなる配慮を望む声があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	46	1	0	10
「はい」が97.9%、「どちらともいえない」が2.1%となっている。 自由意見は、「実際に知られたくないことがないのでわからない」の1件があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	41	14	2	0
「はい」が71.9%、「どちらともいえない」が24.6%、「いいえ」が3.5%となっている。 自由意見は4件で、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者との共有について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	40	9	0	8
「はい」が81.6%、「どちらともいえない」が18.4%となっている。 自由意見は6件で、「丁寧に対応してくれ、不安に思ったことを電話で話すと事実確認を行い、職員の会議の場で共有してくれる」「不満はない」「不満に感じたことがない」「伝えたことがない」のほか、保護者の不満・要望等への傾聴姿勢や要望等への柔軟な対応について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	25	8	6	18
「はい」が64.1%、「どちらともいえない」が20.5%、「いいえ」が15.4%となっている。 自由意見は、「困ったことはない」の1件があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	保育を実践するにあたっての法人共通の考えを多様な方法で発信し、関係者に伝えている 「すべての子どもの最善の利益のために」を法人共通の保育理念として掲げ、「誉める保育」や「異年齢の関わり」「子どもの主体性の尊重」など、理念を保育で展開するにあたっての考えを、ホームページや見学者に配付する法人パンフレット、コンセプトブックなどに示している。保護者には見学时や入園時のほか、保護者会で説明している。職員には、入職時の法人研修で学ぶほか、入職後には年度当初の会議での周知や、職員会議に設ける研修にて、主任から説明がなされ、職員に理解を促している。		
	各種方針を周知し、現場の主体性を大切にしたい園運営に努めている 保育の実践現場における諸課題については、主任・フロアリーダーに権限を委譲し、現場主導で行えるようにし、必要に応じて園長が相談に応じるなど現場の主体性を大切にしている。園長は年度当初の会議にて、事業計画書を職員に配付し、組織体制や運営、保育の実践、保護者支援等の各分野に対する方針等について説明のうえ、各職員が自身の職責に基づく行動を促している。また年2回の面談等の職員とのコミュニケーションを大切に、各職員の状況に応じた指導や援助を行うことを心がけている。		
	案件に応じた検討決定の仕組みを整え、決定事項を関係者に周知させている 系列園共通の課題等は、法人の理事会や統括会議・園長会で検討・決定が行われ、職員会議で周知している。また職員会議では、運営や行事についての確認や話し合いを行うほか、今年度から組織全体として頑張っていることを確認し合うことでチームワークの向上につなげている。乳児・幼児の各フロア会議は、定期的のほか、必要に応じて随時開催し、現場の課題等の解決に向けた話し合いを行っている。職員会議や各フロア会議の内容や決定事項は各会議録の閲覧によって周知し、保護者には内容に応じてアプリ配信、書面の配付・掲示によって知らせている。		

2			カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリー1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
☒ あり ☐ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			☐ 非該当

サブカテゴリー2(2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	☐ 非該当

評価項目2

着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリー2の講評

保護者や職員の意向を把握し、園運営全般の見直しの参考としている

行事後には、連絡通信アプリによるアンケートを行うほか、登降園時の保護者との対話、保護者との面談などの機会を通じて意向・要望等を把握し、寄せられた声を個別の支援や、保育・行事の見直し等に活かしている。職員の意向は、日々の中での会話時、「振り返りシート」をもとに行う面談、各種会議などで把握し、職員の育成・ケアに活用するほか、園運営全般の見直しの参考としている。また、見学者と会話等から地域の身近なニーズの把握にも努めている。

地域福祉の現状や業界の動向、経営状況の把握を行っている

定員に対する空きや待機状況等の地域福祉の現状は、市内の私立保育所園長会での情報交換、市内の各公立園を拠点とした「基幹型保育所システム」のエリア別の連絡会や研修会での意見交換や情報収集などから把握している。また、福祉業界の動向や行政等の施策は前述の各会議のほか、法人のブロック園長会などで情報を収集している。園の経営状況は、予算に対する執行状況を園長が毎月確認し、必要に応じてサポートを受けている外部の会計事務所に確認しながら把握している。

園運営に関する中期・単年度の計画や各種業務に関する計画が策定されている

運営に係わる施設の5か年の中期計画と単年度の事業計画が策定されている。施設の中期計画では、目指すべき目標として、園児が安心して生活できる園、保育者に選ばれる園、入園希望者が多い園、地域に愛される園、長期安定した運営ができる園を掲げ、これらに対する方針と5年間の各年度で取り組む項目を示している。年度の事業計画では、組織運営、保護者支援・安全等の11項目に加え、園固有の課題に対する方針を示している。保育や行事、保健等の現場の各分野に対する年間と実践単位の計画に作成と周期的な振り返りが行われている。

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

法人職員に求める規範・倫理を示し、啓発を行っている

子どもの人権尊重や機密保持、ハラスメントの禁止、職員の言動や身だしなみ等の法人職員が遵守すべき規範・倫理を法人共通の「職員の心得マニュアル」に示し、入職時の法人の初任研修や園配属時に周知している。また、年度当初の会議で事業計画をもとに説明するほか、資料を配付のうえ、理念や保育の実践などの園が目指すもの、大切にしていることを説明している。その後の職員会議に設ける園内研修で所作や保育の実践にあたっての考えなどについて定期的に確認する機会を設け、職員の理解と徹底を促している。

職員・家庭の虐待防止の体制や保護者の要望・苦情を把握する仕組みを整備している

子どもとの適切な関わりとして、いわゆる不適切保育の排除に向け、法人がガイドラインを策定し、職員会議で周知を図っている。また法人のチェックリストによる振り返りを職員が年2回実施し、集計結果から把握した傾向をもとに注意喚起がなされるほか、主任が行う園内研修を通じて徹底を促している。家庭による虐待の早期発見・防止に向け、手引書を整備し、関係機関への通告と連携する体制を整えている。苦情解決制度は、掲示や入園時の説明等で周知し、玄関に設置する意見箱、口頭や連絡帳等を通じて保護者の意向を把握する仕組みを整えている。

施設情報を発信し、地域のネットワークに参画している

施設の情報は、園や園が所在する市のホームページ等の各種媒体を通じて発信している。マニュアルを整備する等の体制を整えて、近隣中学校からの職場体験生を受け入れている。市内の私立保育所園長会、市内の各公立園を拠点とした「基幹型保育所システム」のエリア別の連絡会等の地域内のネットワークへの参画を通じて、市内の他施設との交流や協働に取り組んでいる。地域の子育て支援として、来園した見学者からの育児の相談に応じており、園の機能や専門性を還元する地域貢献については過年度から継続した課題となっている。

カテゴリ－4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ－1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ－毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ－2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ－毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ－4の講評		
重要リスクの発生に備えてマニュアルの整備や研鑽を行っている 各種リスクの発生に備え、感染症対応や衛生管理、事故や危機管理等に係わる法人共通の手引書類を整備している。登園時・園外活動前後等での園児の人数確認やコロナ禍収束後も引き続き、感染症対策として手洗いや消毒の徹底に努めている。保健年間計画に基づき、熱性けいれんや嘔吐処理、エビペンや熱中症、窒息対応やSIDS発症等に手順確認や実践訓練を、動画も活用しながら看護師が職員に指導している。地震や感染症を想定した事業継続計画(BCP)の策定と共有をしており、年1回の研修を通じて職員の理解を促している。		
訓練や点検を行い、ケガの再発防止や未然の防止に取り組んでいる 毎月の防災訓練では、管理職不在時、戸外活動中や水遊び中、午前・夕方の時間帯等での火災や地震の発災を想定した訓練を実施している。早番担当の職員や園長による施設・設備に関する安全点検を周期的に実施し、安全の確保と事故の防止を図っている。ヒヤリハットや保育中の子どものケガについては、発生後の共有によって職員に注意を喚起するほか、系列園のヒヤリハット等や他園の事故事例は、法人経由で報告される「安全レポート」を通じて、園内で共有し、再発防止や未然の事故防止に活かしている。		
情報の適切な運用・管理に向け啓発を行っている 個人情報等の園内で取り扱う各種情報の適切な管理については、関連する規程類に定めており、入職時の法人研修や年度当初の職員会議にて職員への説明と誓約書の提出によって、その理解と徹底を促し、情報漏洩に努めている。園内で取り扱う各種書類は、その機密性などに応じて施錠可能な棚に保管している。電子情報は共有のサーバーに保存し、保存データや各PCの利用にはパスワード等によるアクセス制限を設けている。個人情報の取り扱い等については、保護者に入園時の説明と書面による同意確認をしている。		

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価

標準項目

☒あり ☐なし

1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している

☐非該当☒あり ☐なし2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に
活かす仕組みを設けている☐非該当☒あり ☐なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

☐非該当

カテゴリ5の講評

法人・施設が連携しながら職員の募集・採用を行い、職員の適切な配置に努めている

法人内の担当委員会が中心となって、法人サイトや求人サイトを活用して職員の募集・採用を行っている。系列全園も法人と連携して、養成校への訪問や施設見学の受け入れを通じて、保育内容や処遇面等の説明を行っている。また就職フェアの活用や在職者への人材紹介奨励など、多様な方法で人材の確保に努めている。配属・異動は、法人が各園の状況を踏まえて行い、園内の保育者の配置は、各階の子どもの状況や各人の意向、経験や適性等のバランスを考慮して決定している。

キャリアパスと人材育成の仕組みを整備し、職員の成長を支援している

職員の入職後のキャリア形成の道筋と、職責・経験年数及び研鑽等の目安は、「職員のキャリアプランについて」に、人材育成の方針及び園・法人内の研修やOJTの概要を事業計画や「研修計画」に示し、職員には年度当初の会議で説明している。職責に応じた法人策定の「振り返りシート」により、次年度の目標や受講すべき研修の設定を行い、園長との面談による助言・指導を行うほか、上席者が行う人事評価を人事や処遇の参考として、各人の意欲の向上を促している。

多様な研鑽の場を設け、職員の育成支援や同僚性の向上を図っている

法人の保育の柱とする「誉める保育」では、系列園の各職員が相互を訪問し、現場の見学と話し合いにより、知見と技術を高める研修を行っている。国のキャリアアップ研修や自治体・各種団体の種々の研修の受講により、各職員の専門性の向上を促しており、これらの内外の研鑽での学びは、会議での口頭報告、報告書の閲覧によって共有を図っている。また今年度から主任主催の研修を毎月設け、新任者やリーダー層の育成に取り組んでいる。各フロア会議では、折々の課題解決に向けた話し合う中で、各職員の知見を共有して同僚性の向上につなげている。

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) さまざまな経験年数を持つ職員がいる中、法人が目指す保育を園全体で展開できるよう、保育理念や方針の理解を深めるため、研修や指導を通じて保育の質の向上を目指すこととした。また保育の質の向上の前提として、園児にとって安全・安心・清潔な環境の整備に取り組むこととした。 都のキャリアアップ研修や「営める保育」の系列園への相互訪問研修等の法人内外の研修への職員の受講を積極的に進めた。施設内の安全点検の徹底に取り組むとともに、職員会議の中で、看護師主導による保健関係に係る救命救急等の実践的な研修会を行ったほか、警察署や消防署と連携した防犯や防災訓練、消防署による救命救急訓練を実施した。また、事故の未然の防止に向け、ヒヤリハットの収集と共有に努めた。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 職員の法人内外の研修への派遣については、概ね計画通り進められ、会議での報告等を通じて組織全体で知見を共有できたほか、ヒヤリハットの収集や内外の機関と連携した保健・衛生面の訓練などを通じて、職員の安全に対する意識が高められたと経営層は考えている。今年度は法人内の研修の一つを主任主催研修に変更し、より現場の課題に即した内容での学びを深めるとともに、引き続き内外の研修に職員を派遣することとした。また職員の理解をより深められるよう、動画を活用した保健衛生面の園内研修を計画している。保育の質をさらに高めるため、系列園で設立した「科学する心・東京自主研究会」を活用して、ソニー教育財団の研究発表に取り組むとともに、東京都の事業である「とうきょうすくわくプログラム」事業も活用して職員の育成を図ることとしている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

保護者の育児等の悩みや要望等は多様化しており、職員が気軽に相談し、要望を寄せられる環境・雰囲気常日頃から意識して作る必要があると考えられ、保護者の個々の事情に寄り沿った支援を行うことを目指すこととした。
登降園時での保護者との対話や親切・丁寧な関わりに努めるほか、連絡帳はアプリで行えるよう変更し、保護者ときめ細やかなやり取りを行えるようにしながら、信頼関係の維持向上を図り、相談しやすい環境を整えていった。また、口頭等で相談・要望等を伝えにくい保護者のため、意見箱を設置した。個別の配慮が必要な子どもの保護者とは対話を密にしながら、悩み等を傾聴し、関係機関と連携を図りながら適切に保育に努めた。
土曜日に行っている保護者会では、保護者の要望を踏まえ、お茶やお菓子を用意し、保護者同士が交流を行えるようにした。また、家庭でも絵本の読み聞かせを行えるよう、絵本コーナーの設置も行った。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

保護者との対話に努めるほか、保護者から園の運営、職員の対応などに関する苦情はないことから、保護者とは概ね良好な関係が構築されていると経営層は考えている。引き続き保護者とのコミュニケーションを図り、相談しやすい雰囲気を作るとともに、職員会議などの場で保護者支援について、職員への指導を行っていくこととした。一方で今年度の利用者調査の結果から、外部の相談窓口としての第三者委員等の認知度の向上を図る必要性があると考えており、今後の工夫を期待したい。
絵本の貸し出しについては、毎日、たくさんの絵本が貸し出されるなど、積極的な利用が行われている。今後は、保護者から要望があれば、新たな絵本を購入することとしている。
保護者会での保護者同士の交流の場は今年度も継続するほか、保護者の食事提供の一助となるよう、年2回の給食試食会を設けるなどして、保護者支援に取り組むこととしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐ 非該当
サブカテゴリ1の講評			
「コンセプトブック」やホームページを通じて、園の保育や考え方を発信している 法人の子育てに関する考え方や保育実践について、写真と文章でまとめた「コンセプトブック」を作成し、園見学を訪れた保護者に渡している。法人ホームページ（以下HP）内に当園のページを作成し、園の情報を発信している。園の概要として、所在地・定員・保育時間・基本的な一日の流れ・年間行事予定などが掲載されている。加えて、自己評価や決算書、第三者評価の結果も見ることができるようになっている。また、同法人が運営している保育園の紹介ページへのリンクが設定されており、閲覧することができるようになっている。 市のホームページや園の掲示板を通じて、園の情報の発信に努めている 市役所経由で入園状況やサービス状況を共有し、国分寺市のHPを通じて発信している。併せて、認可保育所の紹介ページに、定員・保育開始年齢・開所時間・延長保育などの情報が掲載されているほか、上記法人HPへのリンクが設定されている。昨年度から始めた4・5歳児を対象に行っている英語教育のチラシを園の外にある掲示板に貼り出し、地域の未就園家庭への情報発信に努めている。今後は園庭開放や体験保育といった、利用を希望する人が園を訪問する機会を設け、より地域との関わりを増やしたいと考えている。 園見学は随時受け入れ、遊びから食事に至るまでの流れを説明している 園見学は個別に電話で受け付けを行い、予定・時間を調整して同時に最大2家庭を受け入れることとしている。時間帯は保護者の希望に沿うほか、園の保育の特色が出やすく食事のことを知りたい保護者からの要望に応じて11時頃を勧めている。法人のパンフレットや上記「コンセプトブック」を用いて、法人・園が大切にしている保育観や行っている保育の特色などを説明している。園舎内の見学では遊びから食事に至るまでの一連の内容を見てもらい、質疑応答はつど行うことで、保護者の不安・疑問の解決に努めている。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当	
サブカテゴリー2の講評			
入園が決まった家庭には説明会を行い、提供する保育サービス等について説明している 新年度に入園が決まった家庭に対しては入園説明会を実施し、年度の途中で入園が決まった家庭には事務所で個別に説明を行っている。説明の際には入園のしおり(重要事項説明書)とスライドを用いて、園の基本理念や基本ルール、行われている保育や室内環境などを、写真を交えてわかりやすく工夫して保護者に伝えている。加えて、虐待防止に向けた体制や研修、通報などの仕組みについても説明している。説明内容に対する質問等は、説明会の後に行われる個人面談で対応し、同意書への記名をもって意向を確認している。 書類や面談等により、新入園児の個別情報の把握に努めている 子どもの状況や家庭環境、健康状態や個々のかかりつけ医といった情報は、入園時に提出される「個人情報調査表」や「食事状況確認表」といった書類や個人面談、健康診断等により把握に努めている。面談の際には園長・主任が待機して、必要に応じていつでも加わられるようにするほか、既往歴やアレルギーがある子どもに対しては看護師や栄養士が同席し、より詳細な情報の聴き取りや個別の配慮の検討を行っている。説明会・面談の後には共有会を行い、得られた新入園児に関する情報を職員全体で把握できるようにしている。 入園後の保護者・子どもの負担軽減に努め、退園後も支援の継続を図っている 入園直後は保育時間を短めにする「慣らし保育」を実施し、保護者・子どもの負担の軽減に努めている。また、保護者には連絡帳や送迎時の情報共有を密に行い、子どもには関わる職員や遊ぶ玩具を多様に設けて安心できる環境を探すなど、細やかな配慮を行っている。卒園児には卒園アルバムを作成・配付していることに加え、年度途中や卒園以外の退園児には手作りのアルバムを渡している。退園後も育児相談等に応じる旨を伝え、運動会の保護者競技には卒園児にも参加してもらうなど、支援・関係の継続を図っている。			

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	☐ 非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	☐ 非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	☐ 非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもの情報を継続的に記録する仕組みを整えている

入園時に把握している子どもの成長・発達の情報を定期的に更新・記録する仕組みを整えている。体格的な成長は、毎月身体測定を実施し、管理アプリ内に保存しており、カウプ指数(肥満度を示す指標)が算出される仕組みとなっている。健康状態については、健康診断・歯科検診を実施しており、0歳児の健康診断は毎月実施している。心身の発達の状況は、主な発達の現れに関するリストを用いて確認するほか、職員の所見を児童票に記述している。児童票を記入する際には、多面的な成長を捉えることができるよう、定期的に記載者を交代するようにしている。

全体的な計画をもとに年間保育計画を作成し、週案に展開させている

保育内容に関する全体的な計画には、事業の目的や保育理念、保育方針のほか、子どもの保育目標、小学校との連携、社会的責任などに関する園の方針や考え方が明らかにされている。全体的な計画をもとに、年齢別の年間を4期で構成する年間指導計画を策定し、短期的・実践的な週間の計画に展開させている。今年度は年間指導計画と日々の保育との関連性を高めるとともに、子どもの興味など状況を踏まえた活動や環境構成の工夫を行うことを目的に、年間計画と週案とのつながりを意識した実践に取り組んでいる。計画は周期ごとに振り返りを行っている。

個別の指導計画を作成して発達の援助に活かし、職員間で子どもの状況を伝え合っている

集団としての計画に加えて、満3歳児までは個別の指導計画を作成し、発達に応じた援助につなげている。隔週で実施する乳児・幼児のフロア会議では、子どもたちの様子や教具、環境等について検討するほか、保育者の気づき、子どもの状況、環境構成、保護者から伝えられたことを記入する「共有ノート」を各クラスに用意し、出勤時に確認することとしている。保護者に保育計画や保育内容を伝えるべく、全体的な計画を玄関に用意し閲覧に供するほか、保育内容は、日々の対話や連絡帳のほか、園・フロア・保健・食育の各便りを通じて保護者に伝えている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
子どもの羞恥心の芽生えへの配慮や個人情報の保護に努めている 子どもの羞恥心への配慮として、健康診断の着替えの際には、衝立を利用して子ども同士の視線にも配慮するほか、排せつの援助についても、トイレや他児からの視線を遮ることができる場所で行うようにしている。また5歳児を対象にプライベートゾーンに関する話をしており、幼児クラスのトイレには、扉付きの個室も用意している。個人情報の利用の同意や、プライバシー情報に関する利用の可否に関する意向を入園時に確認している。入園後、子どもの情報を外部に提供する場合がある場合には、そのつど保護者の意向を確認することとしている。 家庭の情報等の把握と個別の支援に努め、子どもの意思を尊重した保育実践を図っている 入園時や入園後に行われる個人面談に加え、日々登降園時に顔を合わせる際にコミュニケーションをとるように心がけ、得られた情報や意向等をもとに保育や家庭支援につなげるよう努めている。保育室では子どもの手の届く高さの棚に多様な玩具を設け、子どもたちが自由に遊びを選べるようにしている。日々の活動は子どもたちの意思を尊重して、室内・散歩など複数の活動から子どもたちが選べるようにしつつ、参加した活動を記録して声をかけるタイミングを見計らうなど、体験の機会に偏りを減らす工夫を行っている。 マニュアルの整備や自己点検の実施、記録の保存等、虐待の防止と早期発見に努めている 法人共通の手引書である虐待防止マニュアルに、虐待の定義や保育園の役割などを明示するほか、記録書式や子どもに対する望ましくない態度などを網羅したチェックリストを備えている。定期的にチェックリストを用いた自己点検を行うほか、園長や主任が保育中に巡回したり、職員会議で職員の所作などを客観的視点から指導するなど、よりよい保育実践に向けて取り組んでいる。保育園以外でしてきたケガについて写真を撮影し、日時や経緯、行った対応等を記録しておき、関係機関との連携の際により詳細な情報を伝えられるよう努めている。			

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評			
法人共通のマニュアル類を備え、会議等の機会を活用して業務の標準化を図っている 感染症対応や衛生管理、事故・危機管理や虐待対応、服装・電話対応といった勤務中の職員の心得などについて、法人共通の各種マニュアルを備えている。マニュアル類は一冊のファイルにまとめられ、職員室の誰でも手に取れる場所に置かれている。また、国のガイドラインや都のマニュアル等も同じファイルに綴じられ、園のルールとして活用している。職員会議で、嘔吐物の処理手順の確認や、マニュアルの内容が変更された際の情報共有のほか、入園のしおりに記載された法人の保育の考え方を引用して指導するなど、業務の標準化を図っている。 法人の会議や保護者の声・子どもの状況等を踏まえて、業務手順や内容を見直している 姉妹園の栄養士や看護師、主任等が集まる会議等を通じて各園の事例や知見を持ち寄り法人共通のマニュアル類や書式の改善を行い、働きやすいルールづくりに努めている。保護者が参加する行事等の後にはアンケートを実施し、次年度の行事等の改善を図っている。子どもの発達や状況等について職員会議で振り返り、玩具の内容や配置を見直すことでその時点での子どもの過ごしやすき環境となるようにしている。またコロナ禍の終息に伴い、給食試食会など保護者支援の参加者枠を拡大したり地域交流のあり方を見直すなど、活動の充実に向けて取り組んでいる。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐ 非該当
評価項目1の講評	
子どもの発達や興味などの状況を職員間で話し合い、室内環境の工夫につなげている 子どもの興味・関心や発達の状況は、定期的に確認・記録する仕組みを整えており、定期的に行われるフロア会議では、子どもの姿を話し合い、職員間で気づきを共有する「共有ノート」も活用している。把握した子どもの状況を踏まえて、提示する教具や絵本を見直すほか、机の位置などを検討して、遊び同士の位置関係や空間の広さを検討している。玩具・教具を提供する際には、子どもの目と手が届く位置とし、子どもが活動を自由意思で選択できるよう、子どもとの対話や誘いかけに努めている。 異年齢保育によって育ち合いを促し、文化の多様性に触れる機会を設けている 幼児クラスは2歳以上児の異年齢クラスとなっており、日常的に異年齢の関わりが持たれている。年上児の様子を憧れをもって見ている年下児が、まねをしたり、遊び方を覚えたりするほか、年上児にとっては、年下児の様子を見ながら伝え方を変えたり、優しく遊びに誘ったりするなど、心の成長が促される機会となっている。年間を通じて季節感のある行事に取り組んでおり、意味を知り、遊びや風習を体験することで文化の多様性に触れている。また英語に触れる時間を設けており、楽しみながら異文化を体験し、英語に親しみがもてるよう取り組んでいる。 子どもの特性への配慮に努め、行政と連携を図り、円滑な就学に向け取り組んでいる 特別な配慮を必要とする子どもの援助は、個々の特性を職員間で共有するとともに、保護者とも連携を図りながら行い、市の巡回相談を利用しており、臨床心理士からの助言を援助の参考とし、フロア会議等の場で職員間で助言の内容を共有している。円滑な就学への接続に向けて、就学支援シートの作成に応じるほか、行政と連携を図り小学校見学を実施し、今年度から近隣他園との交流の機会を持つ予定となっている。また異年齢保育の時間とは別に、5歳児が集まって活動する時間を設けている。	

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当
評価項目2の講評		
登園時に把握した子どもの情報を職員間で共有し、降園時に子どもの様子を伝えている 登園時には保育者が視診を実施し、目に見える範囲内の傷の有無や肌の状況、機嫌や顔色を確認している。視診の様子や保護者から聴き取った伝達事項は「生活管理表」に記入して職員間で共有することとなっている。生活管理表は職員間・対保護者との確実な伝達を行うため、マーカーを用いたり、記述のルールを決めたりするなど、さまざまな工夫が凝らされている。降園時には、お迎えが集中して混雑しない限り、子ども一人ひとりのエピソードを伝えられるよう努めている。また玄関フロアには保育の様子を写真を用いて紹介している。 生活習慣の獲得に向けた援助は、子どもの意欲や主体性を尊重して行っている 生活するうえで必要となる習慣や所作の獲得に向けた援助においても、園が大切にする、子どもの意欲や主体性の尊重に努めている。おむつ替えや着替えの援助では、汚れを取り除くことだけでなく、子どもとの対話を大切にしており、どうしたいかを聴いたり、子どもが自分で行おうとする姿を受容し、誉めたりするほか、清潔の心地よさや状況を言葉を用いて伝えている。排せつの自立に向けた援助では、子どもの意欲や排尿間隔のほか、尿意を伝える姿などを踏まえてトイレに誘いかけ、うまくいった時には一緒に喜ぶようにしている。 休息は子どもたちの生活リズムや体力のほか、睡眠の欲求に応じて取れるようにしている 休息は子どもたちの生活リズムや体力のほか、睡眠の欲求に応じて取れるようにしており、保育室内には絵本コーナーなど、ゆっくりと身体を休ませることができる空間を用意するほか、保育室の一角に布団を出して身体を横にできるようにしている。また午睡の時間は目安として設けるものの、午睡をとるかどうかは子どもが選択しており、訪問時にも遊ぶ子どもと午睡する子どもの双方の姿が確認できている。睡眠時にはSIDS対策として、定期的に子どもの呼吸や体勢等の確認を行い、記録に残している。		

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	☐ 非該当
評価項目3の講評		
子どもが自由に遊びを選べる環境の工夫に努めている 自由保育を基本に据えており、保育室内は子どもの興味・関心を踏まえた環境構成とし、幼児クラスでは、机上の活動を行うスペースと表現活動を行うスペースに分かれている。子どもたちの今の興味や今後の広がりを、実施するフロア会議等の機会に職員間で共有し、玩具・教具・絵本の内容のほか、子どもが遊び込めるような遊び同士の位置関係と広さを検討している。また子どもたちが自由に活動を選ぶことができるようにしており、描画や制作のコーナーなど、安全の確保や配慮が必要な時には、保育者が側について援助している。 集団活動に主体的に参加できるよう配慮に努めている 表現活動や造形活動などの集団活動の時間も設けており、発達に応じた体験の機会を保障している。集団活動となるこれらの活動を実施する際には、全員参加を前提とせず、子どもたちが主体的に活動を選択できるよう誘いかけることを大切にしている。また夏祭りではテーマや楽しみたいこと、お泊まり会では食事のメニューなどを子どもたちと話し合って決めるなど、子どもたちが意欲を持って取り組めるよう工夫している。活動への参加が難しい子どもがいる場合には、雰囲気を感じられる場で見学をするなど、体験が失われないよう配慮している。 感覚や感性を育む活動をさまざまに採り入れている 氷・片栗粉・粘土・砂などさまざまな物質に触れることで感覚を養う感触遊びを採り入れるほか、夏季の水遊びや春・秋の芋掘りなど、季節ならではの体験もしている。散歩は子どもの声や気づきに応答できるよう、少人数で出かけており、見つけた物を足を止めて観察したり、四季折々に変化する自然に触れたりするなど、子どもが自然の不思議や季節の移り変わりを体感する機会となっている。英語のプログラムでは、簡単な挨拶やゲーム、ダンスなどを通じて、英語に親しみをもち、英語を口にして表現する楽しさを感じることができるように取り組んでいる。		

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当
評価項目4の講評		
行事を通じて心身の発達を促し、見通しを持てるよう計画書を作成して実施している 七夕や節分などの季節感のある行事や遠足、表現活動の発表をする「フェスティバル」、5歳児の「お泊まり会」等を行うなど、さまざまな行事への取組を通じて子どもたちの心身の発達を促している。行事を、子どもたちの日常生活と遊びの延長上に位置づけ、子どもたちが主体的に取り組めるよう進めることを大切に考えており、行事のために敢えて練習をしたり、保育士の都合で日常生活スタイルが変えたりすることがないように配慮している。年間の子どもの育ちの見通しの視点を持ち、行事計画書を作成し、見通しをもって取り組んでいる。 集団活動を伴う行事を通じて子どもたちの心の成長を促している 「もりんびっく」では4・5歳児が集団演技に取り組んでいる。息を合わせることに加え、自分がどう動くのか、困っている友達はいないかなど、思いやりや協調性を促すきっかけとなっている。「フェスティバル」では、遊戯やオペレッタを楽しむこと、できるようになったことを見てもらうことをねらいとし、表現することを楽しみながら取り組み、やり遂げることで達成感や充実感を味わっている。また「もりんびっく」「フェスティバル」は保護者を招待して行われており、保護者に喜んでもらうことで、子どもたちに自信や肯定感がもたらされている。 夏祭りや「お泊まり会」の実施においても、子どもが主体的に取り組めるようにしている 夏祭りは、夏の行事を楽しむこと・保護者とともに保育園で楽しく過ごすことをねらいとして取り組み、ゲームやお神輿担ぎを楽しんでいる。取り組むにあたり、5歳児と祭りのテーマやどんなことを楽しみたいかを話し合い、お神輿を制作するなど、子どもが主体的に取り組めるよう配慮している。5歳児は、家族から離れて外泊することで自信をつけ、自立心を育む、友だちや保護者との絆を深めることをねらいとして「お泊まり会」を実施し、夕食の調理やプラネタリウム制作を楽しんでいる。食事のメニューは子どもたちが意見を出し合って決めている。		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		☐ 非該当
評価項目5の講評				
保育時間が長くなる子どもたちの体調や疲労への配慮に努めている 保育時間が長くなる子どもたちの体力面への配慮として、絵本コーナーなど、子どもがゆっくりできるスペースを用意するほか、子どもの求めに応じて布団を敷いて、睡眠をとれるようにしている。一日を通じた活動のバランスにも配慮しており、身体を動かした後は、静かに取り組むものに誘いかけたり、行事に向けた集団活動に取り組んだ後には、自由活動の時間を保障したりし、また一週間を通じた活動のバランスにも配慮しており、子どもの体調や疲労の状況を見極めて、週案の内容を柔軟に変えている。 保育時間が長くなる子どもたちの情緒面への配慮をしている 保育時間が長くなり、保護者の帰りを待つうちに寂しくなってしまうなど、情緒面に不安が見られる場合には、スキンシップを図ったり、ゆっくり話をしたりするほか、好きな遊びを楽しむなど少しでも落ち着いて安心できるよう関わっている。子どもたちが気分転換を図れるように、夕刻でも暗くなるまでは園庭遊びをできるようにするほか、水分はいつでも摂れるよう環境を整えている。また入園直後に長時間保育を実施するのではなく、園での滞在時間を徐々に延ばす「慣らし保育」を採用している。				

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	☐ 非該当
評価項目6の講評		
食事は子どもが自分の意思やタイミングで食べられるようにしている 子どもを主体とする保育の考え方は食事においても同様であり、子どもが自分の意思で食事を摂る選択ができるようにすること、また個々の生活リズムにより朝食を食べた時間が異なることなどの理由から、食事の時間は一斉ではなく、それぞれが食べたい時間に食べられるようにしている。子どもたちが自分の食べたい量を伝えて保育者に配膳してもらい、席まで運んでいる。離乳食が終了した1歳児から自分で運ぶことを採り入れており、自分の食事を大切に運ぶことを通じて、食事を大切にする気持ちも育んでいる。 食物アレルギー対応食や離乳食は、個々の状況に応じて安全に提供できるよう努めている 食物アレルギーを持つ子どもへの安全な食事の提供に向けたマニュアルを整えている。事前に献立の内容を保護者に伝えて確認してもらい、提供する食事の内容を複数職員で確認するほか、着座の位置を考慮し、専用のトレーを使用するなど、誤食防止に向けたさまざまな対策を講じている。離乳食は、入園時の面談で食事の状況や経験食材を把握し、咀嚼や嚥下の状況を踏まえながら進めており、半月ごとに家庭で食べた食材を確認し、食べたものを園で提供することで、食事の幅を広げている。 子どもの食の体験を保障する献立の工夫や食育活動に取り組んでいる メニューは和食を中心に、素材の味を感じられる、だしを効かせた薄味で調理して味覚の基礎を育むほか、多くの食材を使い、さまざまな調理法に触れる経験ができるようにしている。調理保育に活発に取り組んでおり、乳児はイチゴのへた取りやブロッコリーほぐしなど、野菜に触れる体験をし、幼児では調理器具を使って素材を潰したり、粉を混ぜたりするなどして、できあがったものを食べており、作って食べる喜びを味わっている。また野菜の栽培や芋掘りなどの栽培・収穫体験の機会も設けている。		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当
評価項目7の講評		
保健指導は、子どもたちの興味を惹く多様な工夫がなされている 手洗い指導では、絵本やクイズのほかブラックライトを使用して手洗いの効果を可視化し、夏季には動画を用いて熱中症の怖さを伝え、身体の不調を感じた時は大人に話すよう指導している。園医と看護師が講師を務める歯科指導では、紙芝居や模型を用いて歯磨きの動作や歯の働き等を説明するほか、5歳児は染め出しによる効果測定を行うなど、視覚からわかりやすく理解を促す工夫がなされている。水遊びが始まる前の6月中旬に絵本やイラストを用いてプライベートゾーンの話伝え、自分と友達の身体の大切さを指導している。 専門職との連携等により、子どもの体調確認や個別の対応に努めている 「健康・怪我管理マニュアル」に、機嫌や顔色など子どもの健康観察のポイントを明示し、登園時や保育中の健康状態を確認するほか、前日休んでいた子どもやケガをした子どもの様子を看護師が見に行くなど、子どもの体調等の把握に努めている。緊急時の対応や与薬の必要がある場合は保護者と連携を取り、医師の指示書や与薬票を提出してもらい、家庭で一度は使用したことがあるものに限り薬を預かることとしている。嘱託医・嘱託歯科医の協力を得て、健康診断が定期的に行われているほか、ケガや体調不良児が出た際の相談にも応じてもらっている。 緊急時の対応の周知・浸透に努め、保護者への情報発信を積極的に行っている 園周辺にある医療機関の診療科や電話番号等の情報を一覧表にし、職員室に設置している。また、アレルギーや窒息など緊急時の対応や記録書式を同様に職員室に設置して職員間で共有するほか、職員会議で対応手順を確認している。園内で感染症が発生した時には、人数や病状等を各フロアに掲示している。掲示する書式には登園届の必要の有無や対処法等を、イラストを交えてわかりやすく工夫して保護者への情報提供に努めている。毎月保健便りを発行し、病気や気温の変化など季節ごとの健康情報や、園で行った保健指導の様子を掲載している。		

8

評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当

評価項目8の講評

家庭の負担軽減や子育て支援に向けて、さまざまな取組を行っている

0・1歳児の保育室の前に、おむつや着替えのストックを置くなど自由に使える収納場所「ママロッカー」を設けている。2歳以上児には、着替え用の服が不足した場合に備えて貸し出せる服を備えている。寝具など家庭で用意するものなるべく少なくし、おむつのサブスクリプションのサービスを提供するなど、家庭の負担軽減を図っている。もりんびっく(運動会)など保護者を招いて行われる行事等は開催日を土曜日に設定し、保護者の就労状況に配慮している。また、玄関に絵本コーナーを設けて貸し出すなど、多様な保護者支援を行っている。

保育中に撮影した写真等を積極的に用いて、園での子どもの様子を保護者に伝えている

月に一度、園便りとフロア便りを作成し、積極的に写真を使用して子ども同士の関わりや遊び・行事の様子等を保護者に伝えている。個人面談は年に一度機会を設けるほか必要があれば随時実施し、園と家庭での子どもの様子を共有するほか、育児相談などにも応じている。0～2歳児は毎日、3歳以上児は週に一度の頻度で連絡帳を記入している。加えて、3歳以上児は当日の活動報告を写真にコメントを付して掲示するほか、玄関に機器を設置して行事等の様子のスライドを映すなど、さまざまな方法で園の取組を保護者に発信している。

年2回の保護者会を通じて園の取組を保護者に伝え、保護者同士の交流の機会としている

保護者会当日は資料とスライドを用いて、遊びや食事など園での子どもの様子を伝えるほか、日ごろ使用している教具を展示し、ねらいを交えて紹介している。1回目は目標など1年の展望を中心に発表し、2回目は1年の振り返りや進級にあたっての注意事項などを伝えている。また、保護者会当日には飲み物やお菓子を用意して茶話会の時間を設けている。事前に園への質問を募っておき、園生活等への疑問解消に努めている。また、育児相談なども受け付け茶話会の話題とし、ほかの保護者に話を振るなど、保護者同士の交流の機会となるよう工夫している。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		☐ 非該当	
評価項目9の講評				
近隣の商店への買い物や散歩、園に人を招くなど、多様な体験の機会確保に努めている 春には園で栽培する野菜の苗を近くの商店に買いに行き、お泊まり会の際には夕食や朝食の食材を5歳児が近隣のスーパーに買いに行っている。園児の誕生日には当該園児が花を買いに行く取組が1年を通じて実施されている。日々の活動に散歩を採り入れ、歩道橋から電車やバスを見たり、近くの小学校の生徒と挨拶を交わしたり、公園で自然物を拾うなど、さまざまな体験の機会となっている。また、外部から人を招いてパン作り体験を行ったり、防犯訓練の際に警察に来てもらい話を聴くなど、園の職員以外の人を招いた多様な取組がなされている。				

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	法人が目指す保育の現場での展開に向け、職員の育成に取り組んでいる	
内容①	法人が目指す保育を実践現場で展開できるよう、異なる経験年数を持つ職員がいる現状を踏まえ、年度当初の会議では、大切にしていることや目指していることなどについて、園長等から説明がなされている。現場主導で折々の課題を話し合うフロア会議での各職員の知見の共有を通じて同僚性の向上につなげている。法人の保育の柱とする「誉める保育」では、系列園の各職員が相互を訪問し、知見と技術を高めるほか、キャリアアップ等の内外の研修に職員を積極的に受講させている。主任主催の研修を通じて新任者やリーダー層の育成にも取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル②	安全な保育提供に向け、さまざまな取組を行っている	
内容②	安全・安心な保育の提供に向け、さまざまな経験年数を持つ職員がいることを踏まえ、共通認識のもとで職員が行動できるよう研鑽等に取り組んでいる。毎月1回、看護師による職員への指導として、熱性けいれんや嘔吐処理、エビペンや熱中症、窒息対応やSIDS発症等の手順確認や実践訓練を行っており、職員が理解しやすいよう、今年度は動画も活用している。未然の事故防止に向け、ヒヤリハットの収集や系列園の事例共有により職員の安全に対する意識を高めるほか、周期的な安全点検に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル③	姉妹園の企画や事例を参考とするなど、業務改善や園活動の充実に注力している	
内容③	同法人が運営する姉妹園で行われた取組を自園でも採り入れ、親子で行うパン作り体験や育児講座などの多様な保護者支援が行われている。また、姉妹園で行われたもりんびっく(運動会)や夏祭りの内容を参考に、企画内容がより盛り上がるよう工夫している。法人が力を入れている「誉める保育」の実践に向け、姉妹園の職員が園を訪れ、互いの園の保育を見学したうえで意見交換をするなど、保育内容の充実に努めている。加えて、園に勤務する看護師が集まって知見を持ち寄り、法人共通のマニュアルの改訂を行うなどの取組も行われている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの主体性の尊重に重きを置いた保育実践に継続して取り組んでおり、子どもの主体的な意欲や行動を養めることに注力している
	内容	子どもの主体性の尊重に重きを置いた保育実践に継続して取り組んでいる。子どもが自分の興味のあることや挑戦してみたいことに自由に取り組める環境を整えており、教具・玩具・絵本等の保育材料は自由に取り出せるよう配置するほか、提示するものは週に一度、子どもの状態を踏まえて内容を見直している。食事・排せつ・睡眠などの生理的欲求に対しても子どものリズムを保障できるよう努めている。また保育者は子どもの主体的な意欲や行動を積極的に養めることに注力しており、子どもが安心してさまざまなことに意欲的に取り組む心を育てている。
2	タイトル	日々の保育の実践に加え、興味や好奇心の広がりやきっかけとなり、知識の獲得につながるさまざまな種類の行事を年間を通じて実施している
	内容	子どもたちが主体的に自分の興味あるものに取り組めるよう、日々の保育を実践することに加え、興味や好奇心の広がりやきっかけとなり、知識の獲得につながるさまざまな種類の行事を年間を通じて実施している。七夕や節分などの季節感のある行事ではさまざまな文化や風習を体験し、「もりんピック」や「フェスティバル」では、みんなで成し遂げることや表現することの楽しさを味わっている。栽培・収穫のほか、食材に触れたり、調理を体験したりするなど、食育活動が行われ、保健指導や園外保育での体験も子どもたちに新たな知識をもたらしている。
3	タイトル	園活動に保護者が参加する機会を多様に設け、不参加の家庭にも細やかな配慮に努めるなど、さまざまな保護者支援を行っている
	内容	同法人が運営する姉妹園の職員や企業から人を招き、パン作り体験などの食育や表現の講座、就学に向けた勉強会など、多様な内容で育児講座を行っている。保護者が園生活を見学する公開保育を月に一度、保育活動に参加する保育参加を年に一度行うほか、日ごろ提供している給食の試食会も開催されている。また、保護者会や保育参加に参加できなかった家庭には、配付した資料に当日受け付けた質問と回答を加えて渡したり、行った制作活動の材料と作り方を後日提供するといった、きめ細やかな配慮も行われている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	コロナ禍の終息に伴い、子どもたちが近隣地域と継続的に関わる機会を確保し、生活の幅をより広げたいと考えている
	内容	近隣の警察署や消防署の職員を園に招き、映像や標語を用いた防犯訓練や避難・消火訓練の指導が実施されている。お泊まり会で使用する食材や栽培活動で植える野菜の苗などを、近隣の商店に子どもたちと一緒に購入しに行く取組がなされている。今後はコロナ禍の終息に伴い、勤労感謝の日等の記念日やハロウィン等の行事を絡めて近隣地域の商店との交流を増やしたり、高齢者施設との世代間交流などの取組を検討している。子どもたちが近隣地域と継続的に関わる機会を確保し、多様な体験の機会となる工夫をより広げたいと考えている。
2	タイトル	今年度改めた計画策定と実践のプロセスの長所をさらに活かすためにも、月単位の子どもの成長を意識的に話し合う工夫に期待が寄せられる
	内容	今年度月案の作成をやめ、年間指導計画に記載した期ごとの子どもの姿を目安として週案を作成することとしている。これまで週案は、月案との整合を意識することで近視眼的になる傾向にあったが、今年度は年間指導計画にある、期の子どもの姿や成長に照らして、週案の保育内容を検討できるようになっている。さらなる保育実践の充実に向け、これまで行ってきた月単位の振り返りに代わる、子どもの成長や状況の把握の機会を、活発に行われているフロア会議等の話し合いの機会を活かして、意識的に設けるなどの工夫に期待が寄せられる。
3	タイトル	地域交流や地域貢献などを通じた園の認知度を高める工夫を今後期待したい
	内容	入園前の見学では、要望に応じて育児相談に応じているものの、園の機能や専門性の還元による地域貢献のほか、地域との交流については、過年度から継続した課題となっている。最寄り駅からの距離や道路から奥まった当園の立地状況などから、園見学者が系列園と比較し少ないことへの懸念や、少子化に伴う園児確保の困難化が想定される昨今の状況などを踏まえ、地域への園の認知度を高めたいと考えている。地域との交流等を通じてより園をしてもらいたいとも考えており、園の認知度を高める今後の工夫を期待したい。